

猿橋勝子先生のご逝去を悼む

気象研究所に長年勤められ気象学会にも縁が深かった猿橋勝子先生は、2007年9月29日間質性肺炎でご逝去されました（享年87歳）。ご逝去に際して、謹んで哀悼の意を表します。

猿橋先生の略歴を簡単にご紹介します。猿橋先生は1943年9月帝国女子理学専門学校（現 東邦大学理学部）を卒業され直ちに当時の中央気象台に勤務されました。1946年2月気象研究所の発足とともに気象化学研究室の三宅泰雄先生のもとで、地球化学・大気化学・海洋化学の研究を始められました。そして、1957年4月「天然水中の炭酸物質の行動について」というテーマで東京大学より理学博士の学位を受けられました。また、1962年6月から7か月に亘りアメリカ合衆国のスクリップス海洋研究所で研究に従事されました。その後、1970年には、日本学術会議の水地球化学・生物地球化学国際会議組織委員会委員に就任され、日本の学術の発展に貢献されました。1974年4月には気象研究所地球化学研究部第2研究室長に昇任、さらに、1979年4月には、女性として初めて同研究部長に就任されました。同年には、原子力連絡会議委員や海洋開発審議会専門委員等の国の専門委員を勤められました。1980年4月に定年で気象研究所を退職されています。

気象研究所退職後は、東邦大学客員教授、女性として初めての日本学術会議会員等を歴任するとともに、地球化学研究協会の専務理事や、「女性科学者に明るい未来をの会」の専務理事として、日本の地球化学の発展や、女性科学者の地位向上のため努力を払われてきました。

猿橋先生の主要な学術研究は、海洋化学や地球化学ですが、気象に関連した研究にも従事されました。始めは、紫外線の研究で、三宅先生が開発された紫外線計を用い環境の紫外線量を測定しました。核実験に関連して、大気圏フォールアウトの研究にも携わり、核実験に由来する放射性核種の降下に関する気象学的研究も進められました。主要な分野の海洋化学・地球化学での先生の業績の一端をご紹介します。海洋学につ

いては、海洋における炭素の研究で、海洋化学にたいして重要な貢献をされました。海水中の炭素は言うまでもなく現在温暖化で問題となっている地球上の炭素サイクルの重要な部分を占めるもので、猿橋先生の研究は現在の研究を先取りするものであります。また、この研究で開発した分析法を1953年の米国による水爆実験で降下したビキニの灰に適用して、第五福竜丸で採取されたビキニの死の灰が珊瑚礁のかけらである炭酸カルシウムからなることを証明されました。また、海水中の人工放射性物質の研究にも大きな成果を残されています。特に、海水中の¹³⁷Cs濃度の広域分布結果は、貴重なデータで現在の海洋循環モデルの検証のためにも役に立っています。なお、海水の全炭酸や¹³⁷Csの研究は、猿橋先生の業績を受け継ぎ改善すると共に、現在の高度化した分析法を活用することによって、地球化学研究部の先端的研究の1つとなっています。

これらの研究成果に対して、猿橋先生は、1964年運輸大臣表彰（大気および海洋における人工放射能の研究）、同年（財）放射線影響協会、研究奨励助成金（海水中の放射性核種の分析法）及び、1985年地球化学研究協会「三宅賞」（放射性及び親生元素の海洋化学的研究）を受賞されています。また、1981年に女性研究者に贈られる「エイボン女性大賞」を受賞されています。

猿橋先生について忘れてならないのが女性研究者を顕彰する「猿橋賞」です。猿橋先生は、日本の女性科学者の草分け的存在で「日本婦人科学者の会」の創立者の一人として、長年女性研究者の地位向上のため努力されてきました。関連して、「女性として科学者として」などの著書を多く残されています。1980年、女性科学者の顕彰のため創立されたのが「猿橋賞」です。今までに、著名な女性物理学者、化学者等が「猿橋賞」を受賞されています。今年、気象学会の高叢 緑会員が猿橋賞を受賞されました。これは、高叢会員ばかりでなく気象学界にとって大変な名誉なことです。現在の男女共同参画社会の中で気象学の分野でも女性研究者が確固たる地位を築きつつあることの証拠であると考えられます。

猿橋先生は地球化学者の三宅泰雄先生のもとで、研究を続けられました。その結果、100篇近い科学論文（気象研究所編「Geochemical Study of the Ocean and the Atmosphere」(1978)等に集録）に加え多くの著書を出版しています。このような大きな業績を残されたのは、三宅先生を生涯の共同研究者として、厳しい研鑽に励まれたからと推察されます。猿橋先生

は、研究についても生活についても大変厳しい先生で、先生が現役時代、地球化学・海洋化学の分野の皆様には有名でした。

今後も、猿橋先生の遺志を受け継ぎ気象学の発展のため努力したいと思います。猿橋先生、安らかにお眠り下さい。

気象研究所地球化学研究部 廣瀬勝己